

本音の コラム



やまぐち じろう
山口 二郎

オバマ前大統領は最後の記者会見で、「私たちの民主主義にはあなた方メディアが必要だ」と訴えた。事実を顧みないという意味の「ポスト真実」という言葉が世界を覆い、権力の虚偽を批判することの重要性がかつてなく高まっている時、正鵠^{せいこく}を射た退任会見だと感心した。

日本でもポスト真実を開き直って実践する動きが広がっている。特に、東京MXテレビの「ニュース女子」という番組で、沖縄における基地建設反対運動に関するデマをまき散らしたことは、メディアの劣化が瀬戸際まで来ていることを意味する。ネット上でデマが

ポスト真実

蔓延^{まんえん}するのはむしろ常識に属するが、地上波のテレビで嘘^{うそ}八百を並べることはない^とと視聴者は当然視してきたはずである。二十日の特報面でこの問題を詳しく検証したことには拍手を送りたい。

しかし、一つ気になることがある。あの番組では、本紙の論説副主幹なる人物が司会を務め、デマや中傷を止めようとはしなかった。翌週の同じ番組では、抗議があったことを紹介したが、報道に間違いがあったとは認めなかった。ゆえに、司会者はこの種のデマに賛意を示しているとみなすしかない。ジャーナリストの職業倫理にもとめるのではないか。

さらに、本紙論説副主幹という肩書で社外で活動するというのは、いかななものかと思う。

(法政大教授)